

## 第6章 問題提起

第5章にて、ほとんどの『通勤ライナー』はラッシュのピーク時を避けて運行されているものの、ごく一部の列車に関しては、ラッシュのピーク時に運行されていることがわかった。こういった時間に走っている『通勤ライナー』は需要が非常に高いことが予想される反面、前後の一般列車の運行を阻害しかねない。なぜなら、『通勤ライナー』が運行されることによって一般列車の間隔が大きく開くことで前後(特に直後)の一般列車に乗客が集中することが考えられるからだ。『通勤ライナー』の直後に運行されている一般列車の混雑は、他の一般列車と比較して悪化する、というのを仮説とする。

第2部以降ではこうしたピーク時に走っている『通勤ライナー』とその前後の一般列車について、現地調査も含めながら分析する。そして、鉄道会社がどのようにしてピーク時に『通勤ライナー』を設定しているのか、またピーク時に『通勤ライナー』を走らせることで生じる問題はないのかという点について、仮説を検証しながら探っていきたいと思う。